



ASAHI University News Letter

vol.142

November 2022

発行日/隔月1日
編集・発行/朝日大学 総務部



朝日大学HP

「朝日大学公開講座2022」を開催

朝日大学では、「地域と共に歩む大学として日頃の研究成果を社会に還元する」ことを目的に、1987年から日常生活に身近な話題を取り上げた公開講座を開催しています。今年度の公開講座では、「街道と地方創生」「がんと生きる」をテーマに斯界の第一人者をお招きして、地域社会の幅広い層の人々に学習機会を提供しました。

2022年度
朝日大学公開講座

街道と 地方創生

2022. **9.3** ± 13時開場 13時30分開始

参加費 無料
定員500名

場所 瑞穂市総合センター「サンシャインホール」

演題 「街道の魅力・見所」と「街道観光による地域活性化」
～東海・中山道と美濃路を活用する身体作りとまちづくり～

演者 志田 威 先生
東海遊覧観光生活館 館長・館長
朝日大学 客員教授
元東海遊覧観光株式会社 専務取締役
元東海遊覧観光株式会社 代表取締役社長

演題 地方を元気にする男

演者 谷 喜久郎 先生
株式会社新東海遊覧 代表取締役会長兼社長
一般社団法人スミス地域創生研究会 代表理事
日本・カタルーニャ友好親善協会 会長

後援/朝日新聞、岐阜新聞、岐阜放送、中日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、岐阜県、瑞穂市

2022年度朝日大学公開講座

がんと 生きる

2022. **9.10** ± 13時開場 13時30分開始

参加費 無料
定員500名

場所 瑞穂市総合センター「サンシャインホール」

演題 人は「がん」とどう向き合うか

演者 垣添 忠生 先生
医学博士 国立がんセンター 名誉総長
公益財団法人日本対がん協会 会長
朝日大学 客員教授

演題 がんについてもっとよく知る
～人生100年時代に向けて～

演者 坂元 直行 先生
医学博士 朝日大学 教授
朝日大学病院 消化器内科 医師
公益財団法人 がん予防センター がん予防センター
がん高度医療研究室 室長

後援/岐阜県医師会、朝日新聞社、岐阜新聞、岐阜放送、中日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、瑞穂市

公開講座リーフレット(9月3・10日開催)

教育研究の成果を地域社会へ

朝日大学生涯学習センターでは、「地域と共に歩む大学として日頃の研究成果を社会に還元する」ことを目的に、1987年度から日常生活に身近な話題をテーマに取り上げた市民公開講座を開講し、地域社会の幅広い層の人々へ学習の機会を提供しています。

第33回となる今年度は、「街道と地方創生」(第1週:9月3日)、「がんと生きる」(第2週:9月10日)をテーマに掲げ、瑞穂市総合センター内サンシャインホールに講師をお招きして、公開講座を開催しました。



公開講座会場の様子(街道と地方創生)

「街道と地方創生」

朝日大学客員教授で東海道の町民生活歴史館館主・館長の志田威氏、(株)新東通信代表取締役会長兼社長の谷喜久郎氏から、「街道と地方創生」をテーマに講演をいただき、約300名の受講者が熱心に聴講しました。



志田先生が「街道観光による地域活性化」を解説



谷先生が「地域を元気にする男」と題し講演



大友克之学長が開会の挨拶

「がんと生きる」

日本人の2人に1人がかかるという「がん」について、「がんと生きる」と題して、国立がん研究センター名誉総長の垣添忠生氏(朝日大学客員教授、公益財団法人日本対がん協会会長)、坂元直行教授(朝日大学病院消化器内科教授)から、それぞれの立場とご経験に基づきわかりやすくお話いただき、約500名の受講者が熱心に聴講しました。



垣添先生が「人は「がん」とどう向き合うか」と題し講演



坂元先生が「がんについてもっと良く知る」を解説

岐阜県で初導入!! | SDGsに資する最新MRI導入

朝日大学病院(岐阜市橋本町)では、最新型の磁気共鳴画像装置(MRI)を導入しました。同装置は、磁石部を冷却するヘリウムを従来型に比べ大幅に減少させたモデルで、東海地区の医療機関で2例目、岐阜県内では初の導入となります。

従来型では、これまで年間数百ℓの液体ヘリウムが使われていましたが、導入された新型は数ℓの使用で済むため、貴重な天然資源の使用量削減につながると共に、国連が推し進める「持続可能な開発目標SDGs」に資することになります。

大手医療機器メーカーのフィリップ社製MRIは、検査時に音や映像が流れ、寝台のある中央部の直径も広まったことで、患者様の不安解消と快適さが増した検査機器です。

同病院の日下義章院長は、「最新型MRIの導入により先進的医療の提供と、地域医療の充実に貢献したい」と語りました。



県内初の新型MRI

中華人民共和国の領事らが来学

中華人民共和国駐名古屋総領事館から宋静雯領事、呉波領事、四川省国際科学技術合作協会の梁晋顧問らが、9月2日、森下伊三男副学長を表敬訪問されました。

懇談で、森下副学長から、本大学と中国との交流について説明がなされると、一行は本大学の中国との関係の深さに驚き、教育の面でのさらなる交流・発展の提案がありました。

また、磯崎篤則歯科衛生士専門学校長から、現在行っている「さくらオンラインプログラム」の説明があると、「予防歯学」という概念がまだまだ定着していない中国の現状を背景に、領事らは非常に関心を示されました。

一方、呉領事からは、現在中国では、高等学校での日本語教育を推進していることから、日本の大学へ直接留学できる方法を検討していただいたと提案がありました。



表敬訪問をいただいた皆様

「プロポリス」製品開発で連携

地域産業の発展と人材育成を目指す

本大学と養蜂・食品製造の秋田屋本店（岐阜市加納富士町）とが、7月4日に穂積キャンパスで、地域産業の発展と人材育成を目指すことを目的として産学連携協定を締結しました。

今後、本大学歯学部との共同研究で、「プロポリス（ミツバチが巣作りで生成する抗菌効果のある固形物）」を使用した新製品開発に取り組むことになります。

締結式では、大友克之学長が「地域産業に貢献することを誓います」と、中村源次郎同社会長が「共同研究の成果を全国に発信し、皆さんの健康増進に寄与したい」と挨拶。

その後、歯学部教員からは、「プロポリス」に関するこれまでの研究実績についてプレゼンテーションがありました。



中村源次郎会長（左）と大友学長が協定を締結

ウクライナから避難学生の受け入れが始まる!!

ウクライナ支援プロジェクト

ウクライナから入国した学生2名が、大友克之学長を8月3日に表敬訪問しました。

2名のウクライナ人学生は、すでに本大学留学生別科日本語研修課程で日本語を学び始めており、日本語や英語を交えながら、日本での生活やウクライナの現況について報告や説明がありました。

朝日大学は「建学の精神」に基づき、ウクライナの学生の学びを止めることのないよう、支援を続けます。



ウクライナの学生が大友学長を表敬訪問

日中友好協会総会が開催

岐阜県日本中国友好協会（杉山幹夫会長）の2022年度定期総会が、5月28日岐阜市内で開催され、本大学からは森下伊三男副学長が出席しました。

来賓として、中華人民共和国駐名古屋総領事館から李文武副総領事と李巧副領事らが招かれた総会では、「岐阜市と杭州市との碑文交換60周年」を迎えた2022年度における、シンポジウムの開催をはじめ民間交流の推進計画が承認されました。

大学間の多年にわたる相互交流

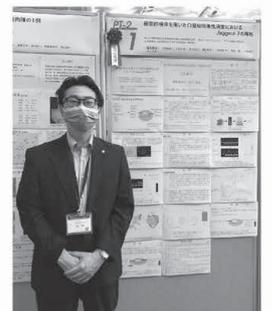
朝日大学は、これからも国際未来社会を切り開くという「建学の精神」に立脚して、中国をはじめとする世界の国々への扉を開いていきます。

優秀演題賞を受賞!!

「第63回日本臨床細胞学会春期大会（6月10日～12日：東京）」において、歯学部（口腔病態医療学講座口腔病理学分野）の落合隆永准教授が「細胞診検体を用いた口腔粘膜悪性病変におけるJagged-1の解析」の演題で「優秀演題賞」を受賞されました。

受賞となった研究発表は、細胞の増殖や分化の調整に関与する分子の1つであるJagged-1を口腔の擦過細胞より解析したもので、腫瘍における役割の解明や個別化医療の検査として口腔擦過細胞診の可能性を示すものです。

今後の研究の進展が期待されます。



「優秀演題賞」受賞の落合先生

大学のこれからと高等学校教育

「これからの高大接続講演会」を開催

高等学校との連携を深め、今後の高大接続教育を考える場として、高校教員の皆様を対象とした「これからの高大接続講演会」が、都ホテル岐阜長良川(岐阜市)において6月9日に開催され、公務ご多用の中、県内外から44名の先生方にご出席いただきました。

本会では、文部科学省高等教育局高等教育企画課・課長補佐の北岡龍也先生をお招きし、「大学のこれからと高等学校教育」をテーマにご講演いただいた後、本大学で活躍する学生による近況報告や出身高校の先生方へのメッセージ動画を放映しました。

最後に、大友克之学長から、本大学の教育、研究、医療そして地域貢献の実績や取り組みを紹介させていただき、ご出席いただいた先生からは、「今まで知らなかった朝日大学を知り、新しい魅力を感じた」、「国の立場、県の立場、高校・大学の立場で高大接続改革を考えることができ有意義な時間だった」など高い評価をいただきました。



文部科学省の北岡先生が講演



大友学長が開会の挨拶

高大接続マーケティングプログラム

マーケティング・商品開発をより深く実践的に学ぶ

本大学マーケティング研究所(所長:中畑千弘経営学部教授)と岐阜県高等学校商業校長会が連携する「高大接続マーケティングプログラム」が、6月22・25日にZoomを利用したオンライン形式により開催され、約200名の高校生、教員らが熱心に受講しました。

「成功事例にみる地域活性とマーケティング」「共感とストーリーをもとに商品を企画してみよう!」をテーマに開催されたプログラムでは、マーケティング・商品開発・ビジネス起業などを、より深く実践的に学ぶことができました。

朝日大学では、マーケティング分野を学んだ生徒が、在学中に得た知識や実践で培った様々な体験をさらに深め、より専門性を磨くことができる特別なマーケティング教育の場を提供し、高校・大学の7年間にわたる接続教育でビジネスの担い手として活躍できる「地域のビジネスリーダー」を育成しています。

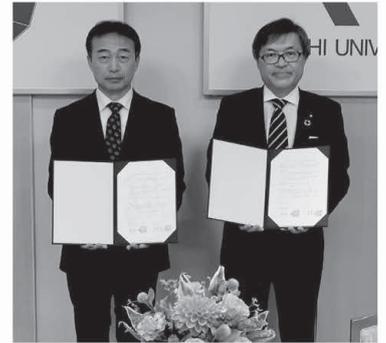
岐阜県立池田高等学校との連携

教育連携・推進に関する協定を締結

本大学と岐阜県立池田高等学校(揖斐郡池田町)が、相互に連携・協力し、高い志と国際感覚をもって地域社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とした「教育連携・推進に関する協定」を、10月5日に穂積キャンパスで締結しました。

締結式では、大友克之学長から「看護師、保健師、歯科衛生士を目指す池田高校の生徒を受け入れ、地域に貢献できる医療人へと育てあげたい」と、西谷徹校長からは「地域の高等学校と大学との連携協力を深めることで、地域社会の活性化が図られれば嬉しい」との挨拶がありました。

池田高校は、卒業生の9割が進学を目指しており、「Global Welfare 地域・国際社会の中でよりよく生きる」を教育テーマに掲げ、「福祉教育」「国際教育」「環境教育」など、様々な体験や学びの機会が設けられている高校です。



西谷校長(左)と大友学長が協定を締結

アクティブ・ラーニング研究会を開催

高大連携・接続を深める

桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部スポーツ教育学科の佐藤豊教授を講師にお迎えし、教職課程センター等の主催による「高大連携・接続によるアクティブ・ラーニング研究会」が8月22日に、穂積キャンパス5号館講義室で開催され、岐阜県内公私立高等学校・瑞穂市内公立小中学校の教諭ら59名(オンライン参加者を含む)が参加しました。

第9回目の本研究会では、佐藤先生から「体育における一人一台端末活用の特徴と課題」をテーマに基調講演を、また、岐阜県立加納高等学校の奥村亮祐教諭と岐阜県立岐阜商業高等学校の黒田匠馬教諭から「ICTを活用した対話的で深い学びの授業実践」の発表をいただき、参加者たちは自身の知識や資料を活用して活発な議論を展開していました。



桐蔭横浜大学の佐藤先生が基調講演

人生を変えることもできる形成外科

看護学科特別講義

保健医療学部看護学科では、本大学客員教授で、美容・形成外科医のいちだクリニック(岐阜市清本町)院長の市田正成先生を講師にお招きし、穂積キャンパス6号館大講義室で7月7日に特別講義を開講しました。



市田先生が美容形成手術の役割を解説

市田先生は「人生を変えることもできる形成外科」をテーマに、「美容形成手術は命にかかわる病気を治すものではないが、見た目の変化や老化防止の施術により、QOL(生活の質)を高め、社会生活に自信が持てるようになり人生を好転させることができる」と学生たちに語りかけられました。約100名の受講生は目を輝かせ市田先生の講義を受講していました。

今回、市田先生からは、先生の自著である看護師向けの美容整形など外科手術の入門書を寄贈いただきました。

教員養成の在り方を学ぶ

実践的指導力を育成する

穂積キャンパス5号館講義室で、岐阜聖徳学園大学教育学部長の秋山品則先生を講師にお招きし、6月24日に「実践的指導力を育成する教員養成プログラム―クリスタル・プランの実践と課題―」をテーマに教職課程研修会を開催しました。研修会には、本大学の教職課程に関わる教職員17名が出席しました。



秋山先生が真の意味での教員養成を語る

秋山先生からは、4年間を見通した体系的な指導体制、教職体験に重きを置いたカリキュラム編成、地域の教育力を生かした実践などにより、豊かな心と人間的な魅力を兼ね備えた真の意味での教員が養成され、その積み重ねが教員採用試験の合格実績へとつながることを解説いただき、本大学の教職課程センターの向かうべき方向を示していただいた貴重な研修会となりました。

図書の寄贈を受ける

この度、本大学就職支援部就職支援課事務主幹・就職アドバイザーの古波藏一成氏から、図書の寄贈を受けました。

『つながる沖縄近現代史: 沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』: 前田勇樹、古波藏契、秋山道宏編(ポードーインク) 2021

2022年は、沖縄の日本復帰から50年という節目の年であり、本大学では初年次教育「建学の精神と社会生活」の中で、沖縄に関わる問題を取り上げています。

この図書は、現代の沖縄社会の抱える課題に向き合ううえで大切なテーマを、時代の流れに沿って学べる構成となっており、沖縄近現代史への理解を深めることができる1冊です。

「建学の精神」を学ぶ

本大学の法学部、経営学部、保健医療学部では、初年次教育として「建学の精神と社会生活」が必修科目として開講されており、新入生たちは、それぞれ学部学科の特色を生かしたオムニバス形式の授業に熱心に取り組んでいます。

〈法学部・経営学部〉

国際未来を切り開く: 国際協力について

独立行政法人国際協力機構JICA中部国際センターの小森正勝所長を講師にお招きし、2000年策定のミレニアム開発目標(MDGs)と、2015年採択の持続可能な開発目標(SDGs)を比較しながら、この20年間における変化、そして、持続可能な開発を阻むものと、残された課題について解説いただき、学生たちは国際協力の重要性を学びました。

〈保健医療学部健康スポーツ科学科〉

女性アスリートと生理学

2004年アテネオリンピックで女子ハンマー投げ日本代表として活躍され、現在、順天堂大学スポーツ健康科学部で准教授として教鞭をとられている室伏由佳先生をお招きした授業では、アスリートとスポーツ医学の繋がりに基づき、女性が安心してスポーツ活動を行うには、女性の身体的特性を、アスリート自身、指導者、サポートスタッフ、保護者らが知識と認識を高めることが大切であると解説をいただき、学生たちは正しい情報を入手することの大切さを学びました。



室伏先生が女性アスリートについて解説

〈保健医療学部看護学科〉

一次救命処置(BLS)講習会

看護学科の授業科目である「建学の精神と社会生活」では、同学科名知ひかる准教授が講師を務め、一次救命措置(BLS)の正しい知識と適切な処置の仕方を身に付けるための講習会が開催されました。

学生たちは真剣な表情で救命措置を学び、講習会終了後には「受講証」を受領しました。



学生たちが一次救命措置を学ぶ

バスケットボール体験教室

Bリーグ「岐阜スーパース」とコラボ

本大学法学部刑法研究室とBリーグ「岐阜スーパース」とがコラボレーションして、穂積キャンパス10周年記念館体育館で、地域の子供たち約60名が参加した「バスケットボール体験教室」が5月15日に開催されました。



「岐阜スーパース」を相手にゴールを狙う

バスケット教室では、準備体操やミニゲームを通じバスケットボールに親しみました。小学生×「岐阜スーパース」のゲームでは、みごとに小学生がゴールを決め、大いに盛り上がりました。

バスケット教室終了後には、キッチンカーによる「山県ハヤシライス」が提供され、はらべこの子供たちの笑顔がみられ、楽しい一日となりました。

全国交通安全運動を展開

交通ルール遵守を呼びかける

学生部の呼びかけで、夏の交通安全県民運動実施期間に合わせ、7月11日～20日の期間に交通安全運動を実施しました。



地域の皆様と交通ルール遵守を呼びかける

学生ボランティア及び教職員約100名が参加して、大学前の横断歩道を中心に車両や歩行者に対し「交通安全ルールの順守」を呼びかけました。

「在留カード」は常に携帯を

外国人留学生「防犯・防災・交通安全講話」

穂積キャンパス6号館講義室で、外国人留学生を対象とした「防犯・防災・交通安全講話」が6月13日に開催され、ドイツ、ネパール、タイ、ベトナムなどの留学生28名が熱心に受講しました。



留学生が講話を熱心に聴く

講師から、特に「在留カード」については、「日本国内では、在留カードを所持していないとそれ自体で法律違反となるので、自分自身を証明する大切なカードと認識して、いつも所持してください」と呼びかけられると、留学生は忘れないよう一生懸命メモをとっていました。

幅広い領域を診療

眼科外来の紹介

朝日大学病院眼科では、外傷、白内障、緑内障、網膜硝子体疾患など目に関する幅広い領域を診療しています。

いわゆる「目が悪い」状態である近視や遠視などの症状も含めると、日本人の大半は目に何らかの異常や不安を抱えています。今まで眼科を受診したことのない方も多いのではないのでしょうか。

眼科の疾患は、早期発見と治療が大切となるケースが多くあります。例えば、若い方からご年配の方まで発症する可能性が高い「緑内障」は、残念ながら末期になるまで自覚症状がほとんど無いこともあり初期段階では見逃されがちですが、治療が遅れるほどに「失明のリスク」が高まってしまいます。

本年4月から名古屋大学眼科学・感覚器障害制御学教室の医師が診療を担当しています。

少し見えにくいと感じたり、何か気になることがあれば、是非お気軽にご相談ください。



眼科外来のスタッフ

6年連続で助成金をいただく

誰もが安心して暮らせる地域社会をめざす

法学部防犯ボランティア「めぐる」が、6年連続で、あいおいニッセイ同和損害保険(株)岐阜支店から助成金をいただきました。

5月16日の授与式で、同社地域戦略室長の永藤明憲氏から「事故を未然に防ぐことは、損害保険会社と同様の目標である。いろいろな社会問題を他人事として見て見ぬふりをせず、常に自分事として捉え、より良い社会を築いてください」と声をかけられると、「めぐる」のメンバーは、「日々の散歩レンジャーや下校見守り活動を通じて、事故の防止につなげたい」と抱負を語りました。

「めぐる」のメンバーは、誰もが安心して暮らせる地域社会を実現することを目的として、これからも引き続き、防犯活動に取り組みます。



永藤地域戦略室長(左)から助成金をいただく

吹奏楽部「金賞」受賞!!

聴衆を魅了する演奏

体育会吹奏楽部が、8月7日に不二羽島文化センター(羽島市)で開催された「第60回岐阜県吹奏楽コンクール」(岐阜県吹奏楽連盟、朝日新聞など主催)に出場し、みごと「金賞」の栄冠に輝きました。

また、ホルン担当の栗田ねねさん(経営4年)が、「きらめき賞」を受賞しました。

2019年春に創部された吹奏楽部は、現在33名の部員が和田隆明監督(教職課程センター講師)の指導の下、「朝日大学でなければ演奏できない曲づくり」を目指して、全日本吹奏楽コンクールや全日本アンサンブルコンテストでの上位進出を目標に、日々練習に励んでいます。



聴衆を魅了する演奏

会計研究部 簿記検定に6名合格

現役学生の公認会計士合格者を多数輩出している体育会会計研究部では、難関試験のひとつである「第161回日商簿記検定1級」及び「第207回全経簿記能力検定上級」に計6名の学生がみごと合格しました。

優れた教育システム

経営学部経営学科の学びの領域「会計・ファイナンス」で学ぶ会計研究部の部員たちは、公認会計士、税理士や企業の財務・会計のプロフェッショナルを目指して、現役公認会計士らによる個別指導のもと、専用学習室でパソコンやWebサポートシステムなどを利用し、夢の実現に向けて学びを続けています。



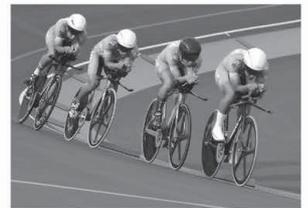
左/「日商簿記検定1級」合格の学生 右/「全経簿記能力検定上級」合格の学生

自転車 インカレチャンピオンに輝く

全日本インカレ創部20年で16回の総合入賞

「文部科学大臣杯第77回全日本大学対抗選手権」が、9月1～4日に鹿児島県根占自転車競技場で開催され、体育会自転車競技部が優秀な成績を収めました。

トラック競技9種目及びロード競技1種目の総合成績で争われる「全日本インカレ」には、基準タイムをクリアした全国43大学からのべ342名が出場。すでに「全日本学生選手権(個人)」で4kmIP2連覇を果たしている安達光伸選手(経営3年)が圧倒的な強さを発揮し、同種目のチャンピオンに輝き、4kmTP優勝、チームSP5位入賞、1kmTT4・7位入賞、タンデムSP6位入賞、オムニウム3位入賞、ケイリン準優勝、ロード3位入賞をはたした自転車競技部は「男子総合3位入賞」の好成績を、また、創部20年目で16回目の「総合入賞」を収めました。



全日本インカレ「4kmTP優勝」



全日本インカレ「ケイリン準優勝」

全日本選手権3位入賞

また、8月25・26日に静岡県日本CSCベロドロームで開催された国内最高峰の「91回全日本選手権自転車競技大会(トラック)」では、4kmTPでみごと3位入賞をはたしました。

「大学ナンバーワン」を目指し、自転車競技部はこれからも走り続けます。

パリ五輪での活躍に期待

全日本選手権、全日本学生選手権や全日本インカレでの優勝経験を有する体育会自転車競技部の安達光伸選手は、7月7日に岐阜市の「ぎふ未来トップアスリート育成プロジェクト」強化指定選手に認定されました。

安達選手は、「パリ五輪を目指し、すべての大会で優勝したい」と力強く今後の抱負を語りました。



「全日本学生選手権」連覇の安達選手

NEWS

秋季入学式を挙行

2022年度朝日大学秋季入学式が、9月20日に穂積キャンパス6号館大講義室にて厳粛に挙行されました。

今秋の入学者は、ウクライナからの3名を含む13名が留学生別科日本語研修課程に、大学院歯学研究科に2名が入学しました。学長告辞を緊張した面持ちで受けた新入生の新たなページが、ここ朝日大学でスタートすることとなりました。

「建学の精神」遵守を誓う

式典では、大友克之学長からの入学許可に引き続き、「建学の精神に基づき朝日大学での勉学・研究にそれぞれが邁進し、有意義な学生生活を送ってください」と告辞が述べられました。



ウクライナ国歌の演奏

なお、今回の入学式では、国歌演奏に引き続き、ウクライナ国歌の演奏が体育会吹奏楽部によって行われました。

秋季卒業式を奉行

2022年度秋季卒業式が、9月20日に穂積キャンパス6号館大講義室において厳粛に挙行されました。

今秋の卒業生は、学部卒業生17名(4カ国)。式典では大友克之学長から、学位記が一人ひとりに手渡され、卒業生らは緊張しつつも充実感に満ち溢れた面持ちで受領していました。



大友学長から学位記が授与される

新たな門出を祝福

教職員・父母等からの拍手と体育会吹奏楽部による演奏で送り出された卒業生たちは、朝日大学での学生生活の日々を振り返りながらも、これから始まる新生活への希望に満ちた表情でした。卒業生たちが新たな門出を互いに満面の笑顔で祝福し合っていたのが印象的でした。



朝日大学学歌の演奏

ブラジリアン柔術で金メダル

朝日大学ELSのDeryk先生は格闘家

「第5回全日本マスターズ柔術オープントーナメント」が愛知県武道館で7月10日に開催され、朝日大学ELS(Asahi University English Language Salon)コーディネーターのDeryk X. Langlais先生が、マスター5紫帯ウルトラヘビー級で、みごと金メダルを獲得しました。

ブラジリアン柔術は、南米ブラジル発祥の寝技を主体とする組み技系の格闘技です。英会話と格闘技のレッスンを穂積キャンパス6号館7階の朝日大学ELSで、是非体験してみてもはいかがでしょうか。



金メダル獲得のDeryk先生

認知症啓発活動に参加

安心して暮らせるまちづくり

本大学保健医療学部看護学科の学生で「ふれあいサークルすまいる」に所属する4名が、「RUN伴+(PLUS)みずほ2022」の認知症啓発活動に参加し、瑞穂市内でマリーゴールドの花の種を市民の皆様様に配付しました。

「RUN伴+(PLUS)みずほ2022」は、同学科の臨地実習施設である瑞穂市社会福祉協議会が主催する催事で、認知症の人と共に安心して暮らせるまちづくりを行う市民活動です。

この活動趣旨に賛同した「ふれあいサークルすまいる」のメンバーは、イベント参加を通じ、地域社会の皆様方との交流を楽しみ、元気いっぱい活動しました。参加学生からは、「今後も、様々な健康状態の市民の皆さんが、過ごしやすい瑞穂市づくり、まちづくりに協力していきたい」との声がかえってきました。



瑞穂市の皆様と「ふれあいサークルすまいる」のメンバー